

令和4年5月10日  
愛媛大学

## 外来種カメムシを愛媛県で発見 ～ヒラタガリカメムシが四国に侵入～

愛媛大学大学院農学研究科の吉富博之准教授と久万高原町立面河山岳博物館の安田昂平学芸員は、四国から未記録であったヒラタガリカメムシ（カメムシ目、カメムシ科）を愛媛県で発見し記録しました。本種は中国や台湾、八重山諸島などに分布する南方系のカメムシで、近年になり韓国や本州、九州などに分布を拡大している外来種です。

本研究成果は、日本昆虫学会の和文誌「昆虫ニューシリーズ」に原稿を投稿し受理され、2022年9月25日発行の3号に掲載される予定です。

つきましては、是非ご取材くださいますようお願いいたします。

### 記

掲載誌 : 昆虫ニューシリーズ、25巻3号(2022)  
題名 : ヒラタガリカメムシ(カメムシ目、カメムシ科)の四国からの記録  
著者 : 吉富博之・安田昂平

●オリジナルの論文PDFは、出版後に下記からダウンロードいただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/kontyu/-char/ja>

### 本件に関する問い合わせ先

愛媛大学大学院農学研究科  
(愛媛大学ミュージアム兼任)  
准教授 吉富 博之  
TEL: 089-946-9898  
Mail: hymushi@agr.ehime-u.ac.jp

※ 送付資料3枚(本紙を含む)

## <研究成果>

愛媛大学大学院農学研究科の吉富博之准教授と久万高原町立面河山岳博物館の安田昂平学芸員は、四国から未記録であった外来種ヒラタトガリカメムシ（カメムシ目、カメムシ科）を愛媛県で発見し四国初記録として報告しました。

## <研究の背景>

ヒラタトガリカメムシ *Brachymna tenuis* Stål, 1861 は、1.5cm ほどの茶色いカメムシの一種で、体が扁平で頭部が前方に鋭く尖ることが特徴の、タケ類の害虫です。香港を基準産地として記載され、中国、台湾、日本（石垣島、西表島）から記録されてきた南方系の種です。ところが、2013年に山口県から見付き、その後は大分県、岡山県、福岡県からも報告され韓国からも2020年に見付きました。韓国および日本の本州と九州では外来種と考えられ、急速に分布拡大していることがわかります。四国では未記録でしたが、中国地方で分布拡大していることから近いうちに侵入してくる可能性が高く注意してきました。

## <成果内容>

2022年4月に愛媛県松山市において本種を2個体採集したので四国初記録として報告しました。2個体とも別々のマンションの廊下を歩いていたもので、おそらくどこからか飛来してきたものと思われます。愛媛大学ミュージアムには日本産の標本はありませんでしたが、中国産の2個体の標本が所蔵されており、それらと比較しましたが違いは見出すことができませんでした。

愛媛大学ミュージアムと面河山岳博物館では、愛媛県から採集されたヒラタトガリカメムシの標本を展示する予定です。

## <展望>

本種はタケ類の害虫ですが、今のところ日本でタケ類への被害は報告されておりません。しかし、生息数が増えるとタケ類へも被害がでる恐れがあり注意が必要かも知れません。また、急速に分布拡大する外来種に共通する特徴として、急激に個体数が増えることが挙げられます。実際に山口県では侵入が確認された翌年に大量発生したことが報告されています。判りやすい特徴（平たい体型と尖った頭部）を持ったカメムシなので、一般の市民も含めみんなでその動向に注目することが重要だと考えます。

最近になり四国に侵入してきた外来種カメムシとしては、キマダラカメムシ（2012年松山市で初確認）、クスベニヒラタカスミカメ（2018年松山市で初確認）、マツヘリカメムシ（2021年高松市で初確認）があります。このうちキマダラカメムシとクスベニヒラタカスミカメは四国への侵入から数年のうちに四国全域に分布拡大しました。今回確認されたヒラタトガリカメムシも瞬く間に広がってしまう可能性があると思われ、他地域でも注意が必要です。



図 愛媛県で確認されたヒラタトガリカメムシ

(図は高画質のものを提供できます。また、論文内で使用されている他の写真も提供可能です。)